

第2回観光委員会

日時:12月6日(木)

場所:浅野鍛冶屋(羽島市)

なごのや(名古屋市)

参加者:委員長の安藤副会長をはじめ24名

今回は、中部圏における観光地域づくりの事例紹介・研究を通じ、観光振興に対する理解促進を図ることを目的に「現地視察会」を実施した。

<浅野鍛冶屋>



「浅野鍛冶屋」は、岐阜羽島駅から徒歩15分の場所に位置し、新幹線を利用して京都から日帰りで見学・体験に訪れる欧米豪の個人旅行者が主な客層である。年間約400名の訪日外国人が訪れ、日本刀と同じ素材でオリジナルのミニナイフをつくる事ができる「サムライナイフ作り体験」が人気を博している。

視察会では、日本刀鍛錬の見学や和鍛冶製法について説明を受けた。また、弟子への技術伝承の一端を垣間見ることもでき、参加者は職人世界への理解と関心を深めた。

<なごのや>

喫茶と民宿施設を併設する「なごのや」は、名古屋駅と名古屋城のほぼ中間に位置する円頓寺商店街の中にある。

視察会では、「なごのや」を運営する田尾大介氏より「観光振興の考え方」と題して、円頓寺商店街の復興に向けた取り組み、外国人旅行客の市場分析、着地型商品の開発から販売チャネルなどについてご講演いただいた。その後、円頓寺商店街



の空き家をリノベーションし活用している集客施設などを見学した。

参加者からは、「現地の観光事業者と意見を交換することで現場の声を聞けてよかった」「訪日外国人がどのようなコンテンツに興味を示すか具体的に知ることができた」などの感想が寄せられた。

(企画部 山田 昶士)

第1回イノベーション委員会

日時:12月14日(金)

場所:栄ガスビル

参加者:委員長の竹中副会長・共同委員長の安形副会長をはじめ35名

竹中委員長の挨拶に続き、事務局より「中部圏イノベーション促進プログラム」「海外イノベーション拠点視察」「中部産業振興協議会」など2018年度の活動報告、ならびに「中部圏のイノベーション拠点に期待される機能(案)」を説明し、意見交換を行った。



中部圏イノベーション促進プログラムについては、「人材育成プログラムの『ビヨンド ザ ボーダー』は、企業としても参加しやすい活動であり、若手が異分野融合でディスカッションすることだけでも意義がある」。また、2019年度の開設を目指すイノベーション拠点については、「産学官が連携して実施していくことが重要」

「場所をつくることは大切だが、単に箱をつくるだけでは人は集まらない、年代、業種を超えた新しい価値創造が構築される場になってほしい」など、多くの意見が委員から出された。

イノベーション拠点については、今回の委員からの意見を踏まえ、スピード感を持って実行していく予定である。

(イノベーション推進部 渡邊 有紀子)

公正取引委員会による講演会

日 時:12月17日(月)

場 所:名古屋栄ビル

参加者:30名

経済委員会では、公正取引委員会より経済取引局経済調査室室長補佐の藤谷義秀氏を講師に迎え、「データ駆動ビジネスと競争政策」をテーマに講演会を行った。



ご講演いただいた藤谷氏

AI・IoTによるデータの収集・利活用の広がり背景に、公正取引委員会では、2017年6月に「データと競争政策に関する検討会」報告書を公表した。藤谷氏は本報告書をもとに、データ駆動ビジネスにおいて競争政策上問題になり得る事項について、具体例を交えて解説を行った。

講演会の後半では、現在中央で議論されている「デジタル・プラットフォームを巡る取引環境の整備」の中間報告について説明を行った。「プラットフォームビジネスは、従来のビジネスと違い関係する省庁が多岐にわたるケースが多く、今後は専門組織の創設も視野に入れて検討を進めていく」と述べた。

質疑応答では、参加者から非常に多くの質問が出され、本分野への関心の高さがうかがわれた。

(調査部 大西 一樹)

第9回国際委員会

日 時:12月18日(火)

場 所:名古屋栄ビル

参加者:委員長の島副会長をはじめ34名

島副委員長の挨拶に続き、事務局から中部圏で活躍する外国人の意見集約として作成する「海外から見た中部圏の魅力向上(案)」について内容の報告を行った。また、集約した意見をもとに、今後の具体的な活動内容について参加者と議論を交わした。

続いて、今回で8回目となる「国際情勢をテーマとする連続講演会」に移り、(株)日本政策投資銀行より執行役員産業調査本部副本部長兼経営企画部サステナビリティ経営室長の竹ヶ原啓介氏を講師に迎え、「ESGとSDGs※」をテーマにご講演いただいた。

竹ヶ原氏は、投融資の視点からESG投資について、これまでの歴史と基本概念ならびに国内外の市場・企業の動向等を具体例とともに解説した。また、投資家の今後の注目点とESGを意識した事業活動の留意点も紹介した(本誌3月号に講演要旨を掲載予定)。

※ESGとは:財務情報だけでは捉えきれない企業の情報(Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治))のこと

※SDGsとは:2001年策定のミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月国連サミットで採択の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲載された2016年～2030年の国際目標

(国際部 平山 りえ)

第2回エネルギー・環境委員会

日 時:12月20日(木)

場 所:名古屋栄ビル

参加者:委員長の水野副会長をはじめ38名

本委員会では、前回の委員会での議論、ならびに国・関係者等へのヒアリングをもとに、国の2050年



意見交換の様子

温暖化対策である「長期低排出発展戦略」の策定に対する意見書を取りまとめた。今回の委員会では、

意見書について報告した後、意見交換を行った。

続いて、経済産業省大臣官房審議官の信谷和重氏を講師に迎え、「経済産業政策における今後の環境政策について」をテーマにご講演いただいた(本誌3月号に講演要旨を掲載予定)。

信谷氏は、12月15日までポーランドで開催され

た国連気候変動枠組条約締約国会議(COP24)に出席しており、COP24で合意された「パリ協定実施指針」の内容や交渉の裏側、各国の気候変動問題に対する姿勢等、COP24に関する最新の情報を紹介した。また、次の温室効果ガス削減目標は、2025年に決定することとなり、目標年次は2030年と2050年の中間の2040年となるのではないかとの見方を示した。

本委員会としては、今後とも、エネルギー問題、気候変動問題等に関する動向を把握し、適宜、意見提起すべく活動を展開する予定である。

(産業振興部 亀井 敬)

中経連 **ダイジェスト**

「愛岐留学生就職支援コンソーシアム」 会員企業・留学生ワークショップ

11月28日(水)、中経連が参画する「愛岐留学生就職支援コンソーシアム」の活動の一環として、会員企業と留学生のワークショップを(株)安部日鋼工業にて開催。同社から6名、岐阜大学から留学生10名(インドネシア・インド・中国・タイ)と教職員4名が参加した。

本ワークショップは、中経連会員企業と当地域の大学に通う留学生に対し、相互理解を促進する場の提供を目的に開催されるもので、参加企業が希望するテーマに関して膝詰めでのディスカッションが行われる。

安部日鋼工業の会社概要とグローバル事業展開の紹介およびオフィスツアーの後、「コンクリートと環境」などをテーマにグループディスカッションと発表を行った。企業側が、セメントおよびコンクリート産業の環境貢献として、他産業からの廃棄物・副産物の有効利用の事例や、日本ではコンクリートの

99%を再資源化していることを説明した。これを受けて留学生のグループに教職員も加わり、コンクリート技術の将来と国際展開等につき、SWOT分析手法を使った活発な議論が展開された。



技術開発部の辛氏と海外事業部の浦川氏(立っている男女)を交えて議論する留学生たち



留学生たちによるプレゼンテーションの様子